

手織りのデニムと共に 成長していきたい。

池田一貴

機織(手織り)・オーダースーツの採寸



もっと生の声

Q & A

— 思い出に残っている出来事は？

糸を手で染めていく中で、何度も繰り返し染める工程を経て、でき上がった糸の藍色の素晴らしさに感動したことは今でも鮮明に覚えています。

— ものづくりで、こだわっていることを教えてください。

均一に織り上げることですね。一反ある生地品の質を均一に保つことは容易ではないです。手仕事で織り上げるため、力入れ具合が変われば生地の風合いが変わってしまいます。織機の調子も日々気にかけていますし、メンテナンスも自分でやるようにしています。

— 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

社会人になったら、どうしても品質や利益に視点を置いて考えることが多くなります。皆さんには、学生時代にしか見ることのできない視点で、様々なことに挑戦し、多くを吸収してほしいですね。「今」を大切に過ごしてください。

「将来は、手を動かす仕事がしたいと思っていました。」という池田さんは、地元の短大で服飾を学んでいた時に、真鍋社長の講演を聞いたことがきっかけで知り合いとなり、「自分のしたかった仕事ができる会社」と迷わず入社したそうです。入社当時は、手織りや藍染めの補助をして経験を積み、入社8年目となった現在は、手織りでデニムを織る仕事を任されています。「手織りではありませんが、仕様書の目付に合わせて、均一に織り上がるように確認しながら織り進めていきます。1時間に織れるのは約10cm。一反織り上げるには3か月を要します。手間と時間は掛かりますが、自分が手を動かし織り上げた生地が、ジーンズとして形になった時は、嬉しいですし、でき上がるまでの過程に自分も関わることができたんだとやりがいを感じます。」お客様の中には、手織りのジーンズの虜になった方もいるそうです。

「ジャバンブルーの社員の平均年齢は32歳と比較的若い人が多いです。それゆえに、固定観念みたいなものは少ないです。まずは行動してみることに。失敗しても、いずれは経験になるという考え方があり、若い社員でも様々なことに挑戦しやすい会社ですね。」

